

●春日部市民文化講座（第22回）

◆日時：2017年2月22日(水) 10時（ぼぼら春日部 4階会議室）～11時

◆テーマ：講演「茶室と建築物の耐久性・耐用年数」

講師：熊倉 慎一さん（松井建設・建築家）

◆ゲスト紹介：北海道小樽市に生まれる。1971年 松井建設入社、主に宗教施設の建築や修理に携わる、社寺建築部部長。丘の上記念会堂建設に際しては、現場監督を務める。趣味は、古い建物を見て回る。現在は、名古屋城の本丸御殿の工事に関わっている。

■松井建設のご紹介

私の勤務する松井建設は、天正14年(1586年)、加賀・前田家2代目の前田利長公が越中守山城を築城される時に、この城普請に参加した大工が始まりでございます。その城普請の褒美として、富山の井波という所に土地を拝領して創業しております。ですから、今年で創業431年になります。その後、関東大震災の復興事業に参画するために東京に進出してきて今日に至っております。天正14年というのは、織田信長公が本能寺の変で滅ぼされたのが天正10年ですので、その4年後ということで創業431年というのは、東京証券取引所1部に上場している企業の中では一番古い企業になります。



■茶室の話

高橋先生から「茶室」の話も少しして欲しいとの要望もございましたので、私は茶道の方からではなく、建築の方からお話をさせていただきます。「茶室」と申しまして、建築的に言いますと「数寄屋」と「茶室」に分けられるかなと思います。建築的に申しますと「茶室」というのは、母屋があってその内の一部に設けられた小さい部屋を呼ぶのに適するかと思います。「数寄屋」というのは、庭園の中の一隅に茶の湯を楽しむために造られた小亭、小さな建物、あるいは「茶亭」とも言うようでございますが、これは室町時代に村田珠光が初めて造り出したものと言われております。また、桃山時代の建築書で『匠明(しょうめい)』という大工さんのバイブルのような本では、「数寄屋」という名称は千利休に始まるとされています。この「数寄」という言葉は、江戸時代17世紀初め頃になって「茶道」という言葉が使われるようになるまでの茶の湯で使われていたようです。ただ、これも鎌倉時代以降のことです。辞書で調べますと、平安時代には「数寄は色好み」を表す言葉だそうです。ここでは風流とか風雅ということを熱意がある、関心がある風流人という意味だそうです。「茶室」や「数寄屋」の建築は、私見ですが亭主の「室礼(しつらい)」だと考えています。ご亭主がどのようにしてお客様をお迎えし、そこでご接待申し上げるか、その一つが茶室であり数寄屋です。ですから、建築屋としてはいかようにもご亭主の趣向のままにお造りすることはできます。そんな中で大工がこだわるのは何かと申しますと、それは「炉縁」です。炉縁を上から見た図ですが、組み方がちょっとだけ違います。こちらは「入りの字」で、こちらは「人の字」になりますが、大工は「入りの字」には組みません。全て「人の字」になるように組みます。天井の回り縁もそうですが、45度でぶつける留めという形が多いのですが、回してこのように組む場合には、下から見て必ず「人の字」になるように組みます。何故かと言いますと、大工の世界では「入りの字」は鬼籍に入る。人が亡くなるということで忌み嫌われてきたようです。

■建築物の耐用年数

続いて、ここからが私の得意といたします「建築物の耐久性・耐用年数」についてのお話しです。最初に、皆様にお伺いいたしますが、法律で決まっている住宅の耐用年数って何年くらい分かりますか。これが以外と短くて、木造でたったの22年、鉄筋コンクリート造、RC造で47年とされています。しかし、現状は木造住宅の平均耐用年数は37年くらいあるようです。木造についてお話しますと、木造建築物の耐用年数に関わる劣化の原因は全て「食害」です。皆さんは意外に思われるかも知れませんが、シロアリやキクイムシなどの虫による食害「虫害」、カビや腐敗菌など菌類による腐敗「腐食」などです。風による「風食」はいくらかありますが、それ以外の木材の劣化というのは基本的にはありません。木造住宅で平均耐用年数が37年くらいと申しましたけれども、文化財ですとか古い建物では1000年以上残っているものもございます。このように木造建築物も、修理したりメンテナンスすることで延命させることはできます。鉄筋コンクリート造も随分持つもので100年くらいは大丈夫です。木造建築物にしましても、鉄筋コンクリート造建築物にしましても、適切な時期に調査をして、適切なメンテナンスを行うことによってそれなりに耐用年数を伸ばすことができます。地球環境という大きな視点で考えますと、建築用材として森林が伐採され、その後に植林をしたりして二酸化炭素を吸収します。こうした樹木の生育期間を考えると50年を超えると、建物が廃棄されて焼却される二酸化炭素をカバーできるそうで、木造の建物を長く使うことは、地球環境に大変優しいことだそうです。

茶室のお話面白かったですが、建築物の耐用年数によって地球環境が守れるというお話も興味深いものでした。